

不定詞

下記の英文をみてください。

★*I want to study English.*

私は英語が勉強したい。

★*My hobby is to cook Thai food.*

私の趣味はタイ料理をつくることです。

上記の文中の to study や to cook のように、不定詞とは「to＋動詞」のことをいいます。不定詞には様々な機能の仕方があり、使えるようになると非常に便利です。ここではそれらの機能について一つずつ説明していきます。

1. 文中で主語(名詞)として「～すること」という意味で機能する不定詞

例★*To keep your room organized is a good idea.*

「部屋を片付いた状態にしておくことはよい考えだ」

※文章の中で、不定詞が主語の名詞として「keep すること」という意味をもっています。

2. 文中で補語(名詞)として「～すること」という意味で機能する不定詞。

例★*My dream is to travel the world.*

「私の夢は世界を旅行することだ」

※上記は This is a pen の This＝pen(主語＝補語)の関係が成り立つ文型です。ここでは「My dream＝to travel the world」で、私の夢は「世界を旅行すること」だ、という名詞の意味を持っています。

3. 文中で目的語(名詞)として「～すること」という意味で機能する不定詞。

例★*He wants to know how to cook curry.*

「彼はカレーの料理方法を知りたがっている」(「知ることを」を欲している)

※to know(知ることを)を求めている(want)という意味になります。to know が want の目的語になっています。

上記はいずれも「to＋動詞」という不定詞が名詞として機能する例でした。これ以外の機能を次ページから述べていきます。

4.第5文型 SVOC の後につく不定詞

例えば「I made it easy」というと「わたしはそれ(it)を簡単にした」という意味になります。これはSVOCの第5文型で、O=Cの関係が成り立ち、「itをeasyにした(made)」という表現です。さて、このitの中身をきちんと述べたいときがあったとします。例えば「私は“その作業を行うこと”を簡単にした」という表現にしたとき、不定詞(to+動詞)を使うことができます。以下のようになります。

例★*I made it easy to do the work.*

「私はその作業を行うことを簡単にした」(作業を簡単にした)

I made it easy のSVOC文章の後にto do~をつけることで、it=to doの関係が成立します。SVOC+不定詞と覚えておくといいです。また、この文章で使えるmakeの部分の動詞は、他にもthink, find などがあります。

5.ある独立した文章に付け加えることで「～になった(結果)」という意味を加える不定詞。

例★*The horse was raised to be the fastest racehorse.*

「その馬は育てられて、最も速い競走馬になった」

※「競走馬になった」という結果を付け加えるための役割を果たしています。

6.ある独立した文章に付け加えることで「～するために(目的)」という意味を加える不定詞(ある文章に付け加えて「～するために」という意味をもつもの)

例★*I checked my wallet to make sure I brought enough money.*

「私は十分な現金を持ってきたことを確認するために財布の中身をみた」

※確認するため(to make sure)に財布をみた、という意味を表現しています。

7.ある独立した文章に付け加えることで「～したために(原因)」という意味を加える不定詞

例★*We are happy to see you in this party.*

「このパーティであなたに会うことができ私たちは嬉しいです」

※嬉しい原因として、パーティで「会えたこと」をto meetで表現しています。

ちなみに、5,6,7の「結果」、「目的」、「原因」は、いずれの意味として使われているかは、文脈によって自分で解釈しましょう。言語では、同じ文法や言葉を使っている、それが複数の意味を持っていて、その場でどういった意味を持っているかを相手の文脈解釈力に頼ることがよくあります。

次ページからは、不定詞の他の機能について引き続き説明します。

8.名詞を後ろから修飾する不定詞

「～する(ための)～である」という意味で名詞を修飾することができます。

例★*They have a lot of forms to fill out.*

「彼らには書き込むための申込書が沢山ある」

※「申込書」(forms)という名詞を to fill out で後ろから修飾して「書き込むための申込書」という意味になっています。

9.疑問詞とセットで使われて、名詞をつくる不定詞(疑問詞+to+動詞)

例えば what to say というと「何を言うのか」という名詞のかたまりです。

例★*When she cried, I didn't know what to say.*

「彼女が泣いたとき、なんといいか分からなかった」

※what to say「何をいうのか」がわからなかった、という意味です。

これ以外にも、when to do「いつやるのか」、where to go「どこに行くのか」、how to study English「英語を勉強するやり方」

など、いずれも文中で名詞として使うことができます。

10.形容詞の後につけて機能する不定詞

「～するのには～だ」という意味で形容詞に具体的な意味を加えることができます。

例★*The local language was too difficult to understand.*

「その現地語は、理解するのには難しすぎた」(難しく理解できなかった)

11.不定詞の完了形(to+have+過去分詞)

文章が全体的に表している時よりもさらに前の出来事を不定詞の完了形で表現できます。例えば「seem to do」というと「どうやら～しているように見える」という意味になるイディオムです。これを、「どうやら～したように見える」と過去形にするなら「to do」の部分に「to have+過去分詞」にすると成立します。

例★*He seems to have forgotten the homework.*

「どうやら彼は宿題を忘れていたように見える(忘れていたようだ)」

12.不定詞の受動態

不定詞は「～すること」という意味を持つ、と前述しましたが、「～されること」という受動態としても機能します。その際は「to be+過去分詞」です。

例★*My cat likes to be petted.*

「私の猫は撫でられることが好きだ」

※to be petted(撫でられること)が like だ、という意味になります。

13.不定詞を使った構文

構文の中で決まった方法で使われる不定詞もあります。これは例文を覚えて、応用する練習をすると良いです。沢山ありますが、以下にその例を挙げておきます。

●too 形容詞＋to do 構文(～過ぎて～できなかった)

例★My niece was too sad to say goodbye.

「私の姪っ子は悲しすぎてさよならが言えなかった」

※sad 過ぎて、さよならを say できなかった、という意味です。

●It is 形容詞＋to do 構文

例★It's nice to take a long vacation sometimes.

「時々長い休暇をとることは言いことだ」

※「to take a long vacation すること」は nice だ、という意味です。

to do＝形容詞、の関係が成り立ち、この文章は

To take a long vacation sometimes is nice.に言い換え可能です。

●不定詞を含む決まり文句(伴う文章全体を修飾している)

例★To tell you the truth, I don't think the US team can make it to the second round.

「実を言うと、私はアメリカチームが第2ラウンドまで進むとは思えない」

※「to tell the truth」の決まり文句で、「実を言うと」という意味を持っていて、セットでよく使われます。